

このたびは、当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- この施工説明書では、「圭」の施工について説明しております。
- 施工には、専門の知識が必要です。専門の業者様にて施工をお願いします。
- 本書を施工前によくお読みいただき、事故のないように正しく施工してください。
- 施工終了後、本説明書は施主様へお渡し願います。

◆施工の前に

- 電動工具や刃物を使用の際は、各工具の説明書に従い、安全に作業を行ってください。
- 圭は、天然素材をそのまま活用した製品です。柔らかい色のムラ感などをお楽しみ頂けます。その為、開梱後に必ず仮並べを行ってください。割れ、欠け、ひびなど無いか状態の確認をお願いします。

◆施工上の注意事項

- 同説明書の指示通りに施工してください。
- 施工後に接着剤の匂いが残る場合があります。必ず窓を開けるなどの換気をしてください。

1. 適用範囲

●内装壁

居室、トイレ、洗面所、台所、玄関壁、廊下壁など直接的な水がかりのない箇所での使用が可能です。
天井への施工は、避けてください。

2. 適用下地

●せっこうボード(厚さ 9.5mm 以上)、合板(厚さ 9mm 以上普通合板、構造用合板)

※コンクリート+モルタル下地・ブロック・モルタル下地の場合は、ひび割れが生じることがあります。

※独立柱に、直接またはボードを取り付けて施工することは避けて下さい。製品にひび割れが入ることがあります。

※ボード下地の場合は、建築工事標準仕様書・同解説 JASS26 内装工事(日本建築学会)に準じた下地の仕様としてください。

※せっこうボードと合板のような異素材の下地をまたぐ場合は、面合わせを行うと同時にボード間に動き緩和用のジョイントテープ(VF414Z-100)を張り付けてください。

※合板を下地に使用する場合圭の特性上、接着剤の乾き時間が早くなります。使用する接着剤の標準オープンタイムより早く施工する事をお勧めします。

・壁面に壁紙が張られている場合

●原則、壁紙が張られている場合は、壁紙をはがしてください。

- ・カッターナイフ等で切込みを入れた後、壁紙をはがします。切込みは裏打ち紙まで届くようにします。
- ・パテ処理部分に接着剤が付いたとき、裏打ち紙が膨張して柔らかくなることがあります。その部分の裏打ち紙はすべて取り除いてください。
- ・裏打ち紙は、可能な限りはがします。容易に剥がれない部分は必ず以下の内容にて、裏打ち紙が剥がれないことを確認してください。

1. 部分的に「#」形にカッターナイフ等で切込みを入れる。
2. 粘着テープ(例:布粘着テープ LS/ニチバン製)を、切込みを入れた箇所全体に貼り付ける。
3. 粘着テープを剥がす。

裏打ち紙が剥がれてこなければ、その上から圭を張ることができます。

剥がれた場合は、その周囲を含め裏打ち紙を取り除いてください。

●壁紙の上から張るときの注意事項

壁紙の上から圭を張る場合は、以下のことを必ず行ってください。

① 壁紙の状況を確認

- ・ビニル系(フッ素・EB 等の撥水系表面処理品を除く)、または布系の壁紙である。
- ・カビ、汚れがない ※カビの発生がひどい場合は、下地の交換もお願いします。
- ・壁紙の剥がれがない。
- ・壁紙表面に撥水処理を施していない。

② 施工前の準備

(せっこうボード下地)

壁紙の剥がれ防止のために、タッカーを所定の位置に打ちます。

- ・幅木、天井、側面との取り合い:端より100mm以下の位置
- ・壁紙の継ぎ目他:455 mm以下間隔

※タッカーは幅 10 mm以上、打ち込み深さは 8 mm以上のステンレス製を使用してください。

(コンクリート・モルタル下地)

壁紙の剥がれ防止のため、一部の壁紙を除去します。継目周辺を 100～200mm幅で除去してください。

3.施工材料

●推奨接着剤(株式会社タイルメント GL-20)

※3 mmのくし目ゴテでの施工で㎡あたり 1-1.2kg を標準使用量としてください。

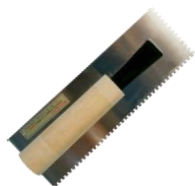
※張り付け可能時間は、30 分以内(気温 23℃の場合)が目安となります。

※隙間が 2 mmを超える場合は市販のシーリング材をご使用ください。

※施工後に接着剤の匂いが残る場合があります。必ず窓を開けるなどの換気をしてください。

4.工具

- くし目ゴテ(3 mm)…接着剤塗付け



- プラ板用カッター…直線カット



- ロータリーカッター…直線、曲線カット



- NT カッター/プラスチックカッター



- 電動ドリル、ホルソー…穴あけ加工



- トリマビット



- ファイルソー…くり広げ、くりぬき



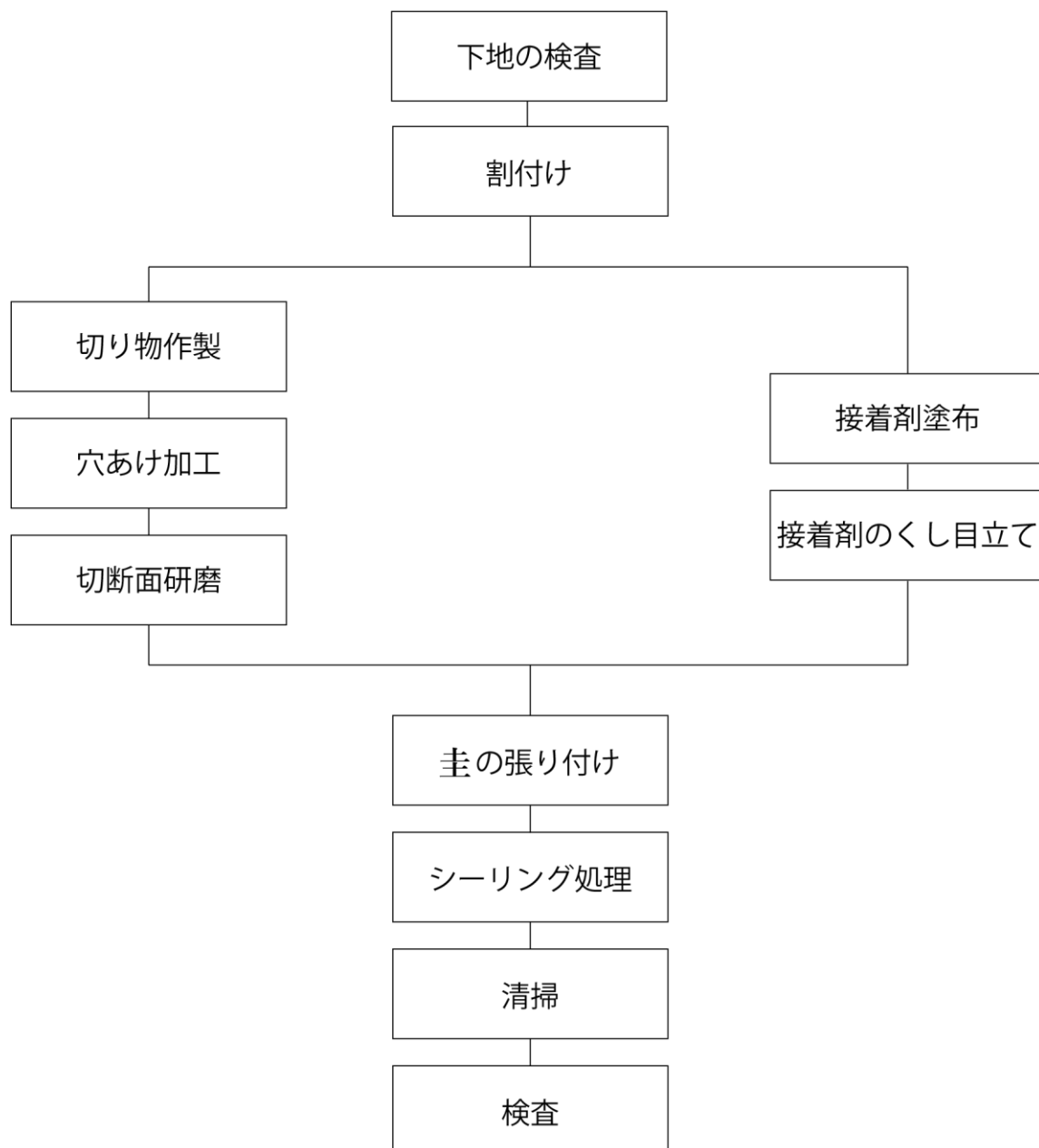
- サンドペーパー
…破断面の研磨及び仕上げ(#40～#80 程度)



カッター・トリマ・ドリル・ホルソーなどの電動工具やペンシルカッター・ロータリーカッターなどの刃物を取り扱う際には各製品の「使用上の注意」をよく読んでから作業を行ってください。また電動工具での各材料を使用する際は保護メガネ・防塵マスクを着用すると同時に集塵を行ってください。

5.施工方法

5-1 工程フロー



5-2 手順

1 施工前に必ず圭を仮並べして確認してください。特に、浪漫(LM-KE-202)と古風(LM-KE-203)の面状は方向性があります。ご注意ください。

①下地の検査

- 留付け金物(くぎ、ねじ)の留付け位置・間隔・留付け状態を確認してください。
- 特にくぎまたはねじ頭のレベルが下地表面より突き出ないようにご注意ください。
- ジョイント部の段差、目違いのないようにしてください。
- 石膏ボードと合板など異素材の下地をまたぐ場合は、面合わせを行うと同時に板間に動き緩和用のジョイントテープ(VF414Z-100)を貼り付けてください。
- 表面のほこり、汚れを除去し表面を乾燥させた状態にしてください。

②割付け

- まず、水平、垂直の基準墨を打ってください。
- 割り付ける際、端部に短寸の切り物が入らないように割付けます。
- 切り物が入りそうな場合は、平物の半分(100mm)以上になるように切り物を揃えて両端に入れた割付けにしてください。
- 突きつけ施工は避けてください。目地間は 1mm 以下にてお願いします。
- 入隅部、他部材との取り合いは 1～5 mmの隙間をあけてください。

③加工

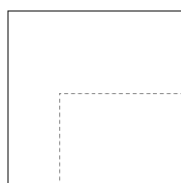
a. 直線カット

- 直線カットは圭の表側にペンシルカッターまたはプラ板用カッターで直線にけがき線を入れます。数回繰り返してしっかりした線が溝程度になるくらい(10回程度の線入れ)にしてください。この線が浅いと綺麗に割れません。その後、直角な架台などの上で、面全体を抑えて押し割るようにしてください。
- 切断面はサンドペーパーなどで研磨します。(最終仕上げは、#40 程度をお奨めします)
- 切断する際は圭がぶれないようにしっかりと押さえてください。
- 圭の表面に切断粉が付着した場合は、ハケや乾いたウエスなどで払い、除去します。

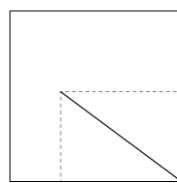
b. L 字、コの字カット

【トリマを用いる場合】

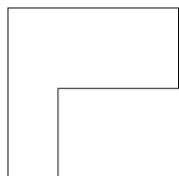
- 製品の裏目にけがき線を入れて切断します。
- L 字カットの場合は次のような切断方法があります。
切断したい線に沿ってコーナーから斜めに切断し、押し切ります。
※L 字に切欠く部分の角部に先にトリマで穴あけすると、切断時のクラックが入りにくくなります。



NT カッター、プラ板用カッター
などでけがきます。



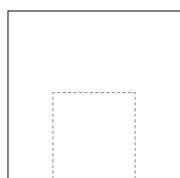
コーナーからトリマで
斜めに切断します。



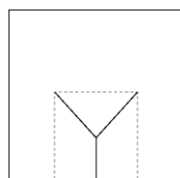
けがいた線に沿って押し割ります。

●コの字カットの場合は、次のような切断方法があります。

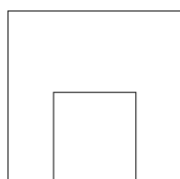
切断したい線に沿って傷をつけた後、図のように切断し、押し割ります。



NT カッター、プラ板用カッター
などでけがきます。



トリマで Y の字に切断します。



けがいた線に沿って押し割ります。

c. 孔あけ加工

- 圭に孔あけをするにはあらかじめ加工した圭を張り付ける方法と圭を張り付けて接着剤が硬化した後に加工する方法があります。

(1) 圭を張り付ける前に加工する場合

台として、加工マットまたは人工芝などを引くことで、圭が滑りにくく、また集塵効果もあります。

【トリマビットを用いる場合】

- 圭に必要な穴をけがきます。
- けがき線のやや内側にビットを回転させながら斜めに刃を入れ込んで、けがき線に沿って、切断します。

【ホルソーを用いる場合】

- 切断するときは、圭がぶれないようにしっかりと押さえてください。

(2) 圭を張り付けた後に加工する場合

- あらかじめ穴の位置をけがいて、圭を張りつけます。
- 接着剤が硬化した後、電気工事業者がエアコンダクトの穴あけに用いるダイヤモンドコアドリルで加工します。接着剤が柔らかいうちに行うと、加工がうまくできないことがあります。
- 圭の裏側にあるコンセントボックスやケーブルなどを傷つけないように注意して行ってください。

【壁面に器具などを取り付ける際のご注意】

- ・ビスや釘を打つ場合は直接打ち込まず、必ず事前に下穴をあけてから留めてください。
荷重がかかる場合は、圭裏面全体に接着剤を付けビス穴は大きめに開け、荷重が圭に直接かからないように注意してください。
- ・圭の破損防止のためビス等は強く締めすぎないようにしてください。
- ・テレビ、エアコン、キャビネット、棚板は圭の上から取り付けることができません。圭は、これらの器具の周辺に施工してください。

④ 接着剤塗布

- 接着剤はくし目ゴテを用いて、下地全面に塗り付けます。
- 塗布した接着剤に 3 mmのくし目ゴテを使用してください。
- くし目ゴテを壁面に対し約 60 度の角度に傾けて、塗り伸ばしてください。
- 1 回あたりの塗布面積は㎡あたり 1-1.2kg が標準使用量です。貼り付け作業時間は、接着剤塗付け後 30 分以内(23℃)を目安としてください。
- ・接着剤が皮膚に触れると肌荒れの原因になる場合がございます。
- ・接着剤が目に入った場合は、水でよく洗い流してください。異常を感じた場合は医師の診断を受けてください。

⑤ 張り付け

- 目地詰めはできませんのでご注意ください。必ず目地間は、1mm 以下でお願いします。突きつけ施工は避けてください。
- 張り付けの際、目地通りに注意してください。
- 割り付けに基づいて手でもみ込むようにして押さえていきます。(たたき板などでのたたき不可)
- 入隅部は、1 mm程度の隙間を開け空目地とします。5mm以下の隙間であれば、シーリング処理をしてください。
- 出隅部は、勝ち負けで納めるかもしくは見切材(推奨品)で納めてください。
- 張り付け作業の早い時期に 1、2 枚剥がして、裏面に滞りなく 6 割以上接着材が付着していることを確認して下さい。接着剤の付着が 6 割未満または、滞りなく全体に付着していない場合は、接着剤が不足しているかもみ込み不足ですので、張り直しをお願いします。
- 目地部から接着剤がはみ出さないよう、また、表面に付着しないよう注意してください。
- 全体を張り終えたら仕上がりの検査を行い、汚れなどがある場合は、張り替えをお願いします。
接着剤が硬化する前(接着剤塗布後 30 分以内(23℃))を目安としてください。

- 粘着力の強い養生テープは、使用しないでください。
- 躯体シーリング用マスキングテープは、テープを除去後表面に残ったのりが時間経過とともにシミになりますので使用しないでください。

⑦ 清掃

- 現場の清掃をしてください。

⑧ 検査

- 全体的な仕上がりに不具合がないか確認してください。特に接着剤のはみ出しはないか確認してください。
- この製品は、天然素材を使用しています。細かな粒が製品内に入り込んでいる事があります。特別な汚れではない限り、それが正規品となります。検査の際は、十分ご注意ください。
- 一部汚れが付着している場合、カッターなどで軽くけずる事で除去する事が可能です。強くけずらないよう、十分ご注意ください。
- 古風面、浪漫面は一定方向に沿った筋の意匠になっています。方向性を揃える場合、施工時に上下など逆になったりしないよう確認しながらの施工をお願いします。

6. 補修

- 軽度なキズ、汚れ補修(えんぴつ汚れ、手あかなど)
消しゴム、メラミンスポンジで軽くこすってください。こすりすぎないようにご注意ください。
- 釘で引っ掻いた程度のキズであれば、キズ回りからサンドペーパー(#60)で粗削り、#180で仕上削りとして軽く削ってください。強く削るとその部分のみ凹んだ状態になりますのでご注意ください。
- 下地に達するようなキズの補修は出来ません。
- 交換については、接着剤が完全に硬化する前、可能な限り施工当日(施工後、30分以内推奨。)をお願いします。それ以降の交換に関しては、下地を傷めてしまう恐れがありますので推奨いたしません。
- 塗料は使用しないでください。中に浸透し更に変色を起こす要因となります。

※1)10ml程度の少しこぼした程度の分量

株式会社 ツツキ

複合建材カンパニー

<https://tuzuki.co.jp/kei>

2023年9月改訂